

蘇る楊貴妃伝説

楊貴妃の里オープン

長恨歌

唐皇重色思頃国
御宇多年求不得
楊家有女初长成
養在深閨人未識
天生麗質難自棄
一朝選在君王側
迴瞳一笑百媚生
六宮粉黛無顏色
春寒賜浴華清池
温泉水滑洗凝脂
侍兒扶起嬌無力
始是新承恩澤時
雲鬢花顏金步搖
芙蓉帳暖度春宵
春宵苦短日高起
從此君王不早朝
承歡侍宴無閑暇
春從春遊夜專夜
後宮佳麗三千人
三千寵愛在一身
金屋粧成嬌侍夜
玉樓宴罷醉和春

楊貴妃伝説

唐の皇帝（玄宗）は女の美しさを重んじ、国を傾けるばかりに絶世の美女を求めていたが、なかなか見つからなかった。ところが、楊家に一人の娘がいて、ようやく大人になつたばかり、奥深い部屋で育てられたため誰も彼女を知らなかつた。だが、天の与えた美しい容姿は、自分でも隠すことができないほど美しく、ある日、彼女は選ばれて、玄宗のそばに侍ることになった。拜謁の日、宮中に入った彼女が瞳をめぐらせて微笑むと、さしもの装いを凝らした後宮の美女たちもまったく色あせてしまうのだつた。玄宗は一目で彼女のとりこになつてしまい、本来の政治もおろそかになつてしまった。

その頃、安祿山というものが、東平郡の王の位にあり、玄宗の恩を厚く受けていたが、玄宗が楊貴妃にうつつをぬかし国政を忘れているのを見て、唐の国を奪うことを企てていた。いろいろ考えた末、彼は楊貴妃の子となるように事を運んだ。玄宗は、愚かにもこれを許してしまった。その後、安祿山は楊貴妃を母と呼び、内政に深く入り込み嘘偽りを